

# 平成 29 年度シラバス（総合実習）

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科（科目）	水産（総合実習）	単位数	2 単位	学年（コース）	2 学年（海洋創造コース）
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

## 1 学習目標

海洋工事・海洋環境・ダイビングに関する総合的な知識と技術を習得させ、安全を重んじ技術の改善を図るとともに、実務に活用する基礎的な能力と態度を育てます。

## 2 指導の重点

実際の産業現場において、安全を重んじる態度や技術の改善を図り、実務に活用することができる能力を育てるために、

- ①水中作業に必要な基本的・基礎的な潜水技術をスクーバダイビングの実習を通して身に付けることを目指します。
- ②河川や海岸の環境調査の手法を身に付けることを目指します。
- ③基本的・基礎的なCAD製図の技術を身につけることを目指します。
- ④沖縄への乗船実習を実施し、海洋観測、ダイビング実習を行います。

## 3 学習計画

月	単 元 名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価の方法
4 5	○海洋環境調査	○漂着ゴミ調査	○海洋環境の現状について調査し、報告できるようになる。 ○河川の環境調査の手法を習得し、報告できるようになる。	2	○実習での行動  ○レポート
	○河川調査	○河川環境調査		2	
6 7	○スキューバダイビング ○スクーバダイビング	○器材の装着と調整 ○エントリー（入水）・エキジット（出水） ○スノーケル・マスククリア ○フィンワーク ○潜降○器材の装着と調整 ○エントリー・エキジット ○全装備遊泳 ○中性浮力 ○バディ潜水 ○水中浮力調整	○潜水の基礎であるスキューバダイビングに習熟し、潜水の概要をつかむ。また、スクーバダイビングに向け基礎技術の習得及び潜水に適した体づくりを行なう。 ○器材の取り扱いに習熟し、自在に水中を移動できる技術を習得する。また、バディ潜水の意義を理解し、常にバディを意識した潜水を身につける。	12	○実習での行動  ○レポート  ○技能の到達度
9 10	○スクーバダイビング	○スイミングアセント ○バディブリージング ○器材脱着 ○船内生活	○緊急時の対応に習熟し、いかなる時も状況を冷静に判断し、対応する技術を習得する。 ○船内生活での自らの役割を知り、自主的に行動することの意義を理解する。 ○産業廃棄物の中間処理および有効活用を理解し、環境への配慮について考察する。	8	○実習での行動  ○レポート  ○技能の到達度
	○環境学習	○産業廃棄物の有効活用		4	
11 12	○海洋丸乗船実習及び 沖縄ダイビング実習	○海洋観測及びデータ解析 ○海洋でのダイビング実習	○海洋観測の項目と方法を理解し、データの解析と分析に習熟する。 ○海洋でのボートダイビングに習熟し、沖縄の海洋環境の知識を習得する。	6	○実習での行動  ○レポート
	○アーク溶接	○アーク溶接		2	
1 2 3	○CAD製図	○CADソフト	○安全にアーク溶接を行う基礎的な知識と技術を身につける ○AutoCADを用いた作図技法の基本的な内容を身につける。	10	○実習での行動  ○レポート  ○技能の到達度

計 64 時間（55 分授業）

## 4 課題・提出物等

○單元ごとにワークシートやレポートの提出を指示することがあります。

## 5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
○実習の内容や各課題に関心や探求心を持ち、その意義や役割を理解している。 ○実習における諸問題の解決を目指して、主体的に取り組むことができる。	○実習の内容や各課題に関する諸問題を総合的な見地からの確に把握し、自ら考察し表現する創造的な能力を身につけている。	○実習の内容や各課題に関する基礎的・基本的な技能を習得している。 ○各課題において安全に配慮した実習行動がとれる。	○実習の各課題の基本的な概念や各種事象を総合的に把握する方法を身に付けている。 ○各種海洋工事・調査・観測における各種技術の意義や役割を理解している。
以上の観点を踏まえ ○授業への取組(授業態度, 出席状況, 発表や討議の様子, 学習活動への参加状況など) ○提出物などの内容および期限の順守 ○実習行動(安全への配慮, 班別活動の様子など) ○実習における技術・技能の到達度 などから、総合的に判断します。			

## 6 担当者からの一言

学習活動を通じて、海洋および陸上の建設工事の基本的な事ごらを理解し、本県の水産業および沿岸域の社会基盤の整備・維持・管理に貢献する基礎的な能力と態度を身につけましよう。また、自然環境の保全と人間生活との関係を理解し、人間と自然とが共生できる豊かな海を守り続けるために沿岸域の開発・整備事業のあり方を考えるように努力ましよう。  
(担当：金子義昂, 下越貴大, 長武範, 渡辺宏幸, 大島正明, 橋本拓実)